

心つないで

No.51

発行

2013年8月31日

東日本大震災

ろっこう医療生協・対策本部(本部長・金丸正樹)

(ろっこう医療生協・本部内 TEL 078-802-3424)

さあ、ふたたび大船渡へ

仮設住宅の皆さんとセーフティウォーキングを

◎東日本大震災からまもなく2年と半年になります。被災者の皆さんの生活再建はまだ途上であり、ろっこう医療生協が支援に伺っている岩手県大船渡市では、37の仮設住宅で約1800世帯が生活されています。理事会では今年度も大船渡への支援として、9月・11月・来年3月と職員・組合員を現地に派遣し、健康づくり・仲間づくりの応援をすることにしました。日常の事業・活動と併せて、阪神淡路大震災の経験を支援活動にも活かし、頑張ってもらいましょう。

先遣隊で、森本専務代行・高松MSIトレーナー大船渡へ

◎現地との打合せのために、森本専務代行と高松メディカルスポーツトレーナーは8月22日～23日、空路大船渡市に向いました。【写真・右】



◎23日、現地で活動のご協力をいただく大船渡市保健介護センターを訪問し、セーフティウォーキング講習会の説明会を行いました。お忙しい中、佐藤かおり所長補佐、鈴木綾子係長、佐藤由美子保健師が対応していただき、高松トレーナーから取り組みの説明、協力をお願いし、快諾いただきました。【写真・左】

鈴木ハルさんとも再会しました

◎23日には、沢川仮設を訪問し、鈴木ハルさんにもお会いしました。医療福祉生協連の情報誌『comcom』8月号に掲載された、「虹の生協人物語」をお見せすると、喜んでいただき、尽きぬお話を伺いました。【写真・右】



なぜ、セーフティウォーキング？ 求められるのは、 健康づくり・仲間づくり

◎これまでの現地での支援活動内容は、主として仮設住宅の訪問・健康相談・健康チェック・集会室等でのお茶っこの参加などでした。今年度はさらに内容を工夫して、ふだん組合員活動としても取り組んでいるセーフティウォーキングの取り組みを大船渡の仮設にお住まいの皆さんにも取り組んでいただこうというものです。

◎阪神淡路大震災のときにも経験しましたが、仮設住宅で体を動かさない生活に慣れると外出が億劫になり、閉じこもりも心配されます。足腰の筋力も衰え、全身の機能低下が要介護状態にもつながります。積極的なウォーキングの取り組みは、それらを改善し、人とのコミュニケーションにも役立ちます。医療福祉生協連にもご協力いただき、被災者のみなさんが楽しくやりがいのある支援を展開します。

